

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1972年 (昭和47年)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人大野城市社会福祉協議会の設立登記完了 ・献血推進事業を市から委託を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行、大野城市となる。(人口36,757人・9,740世帯) ・初代市長に森山幸雄氏。 ・筒井の井戸福岡県文化財に指定される。 ・集中豪雨が襲う。 ・旧南地区コミュニティセンターオープン。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄返還 ・神戸地裁、堀木訴訟判決(児童)
1973年 (昭和48年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回老人学級を開催 ・第1回社会福祉大会 ・第1回母子家庭児童クリスマスのつどいを開催 ・心配ごと相談所の充実を図る(弁護士等に委嘱) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧中央地区コミュニティセンターオープン。 ・大利小学校開校。 ・中央コミュニティ施設完成。 ・集中豪雨が襲う。 ・第1回体力作り市民陸上競技大会開催。 ・市長選挙。市長に森山幸雄氏。(2期) ・福祉手当制度スタート。 	<ul style="list-style-type: none"> ・70才以上の老人医療費無料化制度発足 ・65才以上寝たきり老人医療無料制度実施 ・オイルショック
1974年 (昭和49年)	<ul style="list-style-type: none"> ・祭壇事業を開始 ・交通遺児に歳末見舞金を贈る ・寝たきり老人及び一人暮らし老人に対し火災報知器を取り付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの老人及び寝たきり老人に牛乳の無料配布開始 ・寝たきり高齢者に牛乳の無料配布を開始 ・小水城、国の特別史跡に指定される ・第1回市制アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童手当等改正(重度精神薄弱と重度身体障害の重複する特別福祉手当を支給)
1975年 (昭和50年)	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児者父母の会が発足 ・第1回心身障害児者実態調査を実施 ・公園等に遊具を設置(4ヶ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人介護人手当制度実施 ・重度心身障害児者の介護人に市の介護手当制度を実施 ・九州自動車道(古賀・鳥栖)開通 ・初の市議会議員選挙 ・大野城市のみどりを守り育てる条例施行 ・国勢調査実施(人口52,169人・15,107世帯) ・第1回市制アンケート実施 ・市の木を「クロガネモチ」に、市の花を「キキョウ」に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際婦人年世界会議開催 ・国連総会、「障害者の権利宣言」を採択
1976年 (昭和51年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回心身に障害を持つ子供とその親のつどい ・在宅の心身障害児者に対する訪問教師の派遣拡大請願書を市教育委員会へ提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・北コミュニティ施設完成(記念誌には、「旧北地区コミュニティセンターオープン」と記載) ・大利中学校開校 ・四王寺県民の森完成 ・大野城跡の市内部分が国の特別史跡の追加指定を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・初の5つ子、鹿児島で誕生 ・ロッキード事件
1977年 (昭和52年)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉資金貸付制度を改善 ・地区福祉活動の組織化を開始 ・市に心身障害児者の通園施設の要望書を提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・平野小学校開校 ・市総合振興計画スタート ・市長選挙。市長に森山幸雄氏(3期) ・下水道供用開始(雑餉隈町) ・地方自治30周年記念自治大臣表彰を受ける ・市民憲章制定 ・都市計画税条例(53年度から実施)施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・全社協、全国ボランティア活動振興センターを設置 ・福岡地裁、カネミ油症判決(原告訴訟)
1978年 (昭和53年)	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロバスを購入(15人乗り) ・母親教室を開催(丈夫な子を産み育てる運動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大城小学校開校 ・異常渇水による初の給水制限を実施 ・第1回コミュニティ地区運動会を開催 ・福岡都市圏広域行政推進協議会スタート ・大野城太宰府環境施設組合設立 ・異常渇水による初の給水制限 ・10時間断水に入る ・第1回大野城市少年の船出発 ・給水制限解除 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立水俣病研究センターを設置 ・政府国際人権規約に調印
1979年 (昭和54年)	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児者通園施設「もちの木学園」の運営を市から委託される ・「もちの木学園」にフクニチ厚生事業団よりマイクロバスが贈呈される ・視覚に障害がある方へ「声の広報」第1号を配布 ・ボランティアセンターを設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎開庁 ・厚生省から「障害者福祉都市」の指定を受ける ・心身障害児(者)通園施設「もちの木学園」開園 ・大野城市環境処理センター本格運転開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際児童年記念、国際児童フェスティバル開催 ・角膜及び腎臓の移植に関する法律公布 ・総理府、初の「高齢者問題の現状」を発表

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1980年 (昭和55年)	<ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センター着工 重度障害者、寝たきり老人の非常時における救助体制について市及び消防署に請願を行う 第1回住民福祉講座を開講 地域別に献血懇談会を開始 手話の会が結成される 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回手話講習会が市の主催により開講 特別養護老人ホーム悠生園へ送迎による入浴サービス事業を開始 福祉(緊急)救助隊を、消防署において設置 西鉄白木原駅にスロープ設置 国勢調査実施 ごみの分別収集開始 建築協定条例施行 大野城市太宰府町環境衛生施設組合火葬場「太宰府北寿苑」完成 国勢調査実施(人口64,109人・19,842世帯) 	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害者全国実態調査実施(18才以上の身体障害者197万7千人) 東京、武蔵野市、老人有償在宅福祉サービス事業発足(昭和56年4月に公社設立)
1981年 (昭和56年)	<ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センター完成 父・母子家庭の子供たちを対象とした、第1回ちびっ子料理教室を開催 社協主催による手話講習会を開始 点字サークル・あゆみの会が結成される 小・中学生を対象とした、第1回福祉体験スクール開催 ひとり暮らし老人へ第1回のミニ通信を発行 点字図書の貸出し事業を開始 心身障害者の作業づくりについて、心身障害児者父母の会と研修会を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 御笠の森小学校開校 総合福祉センター完成 開発行為等指導要領策定 東地区コミュニティ施設完成(旧東地区コミュニティセンターオープン) 仲島遺跡から、約2,000年前の中国「新」時代の青銅貨幣「貨布」出土 市長選挙。市長に森山幸雄氏(4期) 第1回まどか市民まつり開催 第1回障害者福祉大会開催 大野城市高齢者事業団がスタート 第1回心身障害児者運動会が開催 	<ul style="list-style-type: none"> 首相「国際障害者年を迎え」の声明発表 中国残留孤児の肉親捜しのための第1次訪日調査開始 岡山・吉備高原都市に保健福祉村誕生(全国初の重度障害者の福祉農園、障害者多数雇用の工場など) 衆議院、「国際障害者年にあたり、障害者の完全参加と平等の実現を図る決議」を可決する
1982年 (昭和57年)	<ul style="list-style-type: none"> 父・母子家庭の子供たちを対象とした、ふれあいの旅を実施 第1回朗読ボランティア講習会を開講 朗読の会・文鳥が結成される 奉仕活動指定校として、大利小学校を指定 福祉食事サービス事業を開始 老人学級が終了する 身体障害者の方を対象とした、趣味の教室(七宝焼等)を開講 心身障害を持つ子供たちとボランティアのレクリエーションを開催 第1回もちの木学園運動会を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 市内初の住居表示(下大利団地)実施 総合体育館、野外センターがオープン 第1回おおの大文字まつりが開催される 市制10周年記念式典が開催される 番茶の会(ひとり暮らし老人のつどい)が開始される 	<ul style="list-style-type: none"> 国際障害者年推進本部、今後10年間の「障害者対策長期計画」を決定 家庭奉仕員派遣事業の対象拡大(低所得世帯限定の廃止)、費用徴収制度の導入 家庭奉仕員の増員
1983年 (昭和58年)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回シルバー短期大学開講 ボランティアのつどいを開催 スニーカー(ボランティアサークル)が結成される 心身に障害を持つ子供たちとボランティアの第1回サマーキャンプを実施 子供会、老ク連との共催による、地域別の手工教室を開催 第1回映画会の開催(灰谷健次郎氏原作・兎の眼上映) 福祉食事サービス利用者のふれあいテーブルを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 第3次大野城市総合計画スタート 春日大野城衛生施設組合設立 総合公園内にアーチェリー場・テニスコートなどをオープン 御陵中学校開講 春日大野城衛生施設組合設立 青少年非行防止スクラム作戦実施会議が発足 白木原に県筑紫総合庁舎が開庁 	<ul style="list-style-type: none"> 厚生省、エイズ研究班発足 東京の自治体で、初めて「社会教育活動主催賠償保険」の創設(ボランティア活動中の事故に対し保険金が支払われた) 社会福祉事業法改正(市町村社会福祉協議会法的位置づけの明確化)
1984年 (昭和59年)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回婦人福祉大学を開講 第1回地域福祉大学を開講 社共会員制度導入する 地域(区)別に福祉委員(1名)を設置 小学生を対象とした大野城市福祉読本「思いやり」初版を発行 県社協が発行する福祉教育読本「ともに生きる」を配布開始 	<ul style="list-style-type: none"> 県内で初めて福祉インターホン制度を開始 春日大野城消防署南出張所開設 在宅寝たきり老人介護手当制度発足 家庭の日(毎月第3日曜日)を制定 大城小学校に留守家庭児童保育所開設(全小学校設置完了) 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡高裁、カネミ油症事件訴訟判決(初めて食品公害での国の責任を認める) 身体障害者福祉法改正(身体障害者の範囲拡大等) 全国高齢者名簿発表100才以上1563人、21年間に10倍高齢化社会を反映

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1985年 (昭和60年)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉講演会を実施(社会福祉評論家・日下部喜代子氏) 地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)牛頸区、瓦田区 悠生園と地域の人達との交流会(輪になって翔ぼう)を共催で開催 住民福祉懇談会を開始 社会福祉大会を開催 大利小学校において、ふくし体験スクールを開催 視力障害者とボランティアの交流研修会を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 資源回収センター(市が身体障害者つくし更生会へ委託)運転開始 歩け歩け運動推進大会開催 総合公園内に市民球場と多目的グラウンドオープン 市長選挙。市長に森山幸雄氏(5期) 国勢調査実施(人口69,435人・22,067世帯) 少年相談センターを開設 在宅寝たきり者の訪問看護制度が発足 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するための労働省関係法律の整備に関する法律公布 WHO国別推定平均寿命発表(日本、男性74.8才世界1位、女性80.7才世界2位)
1986年 (昭和61年)	<ul style="list-style-type: none"> 心身に障害を持つ子供たちとその保護者、ボランティアの日曜教室を開催(親子別の学習とレクリエーション) 視覚障害者とボランティアの日曜教室 ガイドボランティア講習会を開催 ボランティア研修会を実施 地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)南ヶ丘2区 大利小学校にボランティアクラブが結成される 	<ul style="list-style-type: none"> 牛頸ダム記念館が完成 寺子屋ネットワーク事業開講 健やかな青少年を育てるためのスクラム作戦パートIIを策定する 	<ul style="list-style-type: none"> 採血及び供血あっせん業取締法施行規則改正 長寿世界一の泉重千代氏死去 総務庁、65歳以上老人人口1280万人、総人口の10.5%と発表 老人保健法改正(一部負担金の引き上げ等)
1987年 (昭和62年)	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア代表者連絡会が結成される 地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)仲島区 区長会との共催で、地域福祉研究会を開催 「福祉のこころ」講演会(詩人 高田敏子氏)を開催 ボランティアサークルの主催により、1日ボランティア入門スクールを開催 在宅介護講習会の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 春日大野城消防本部に緊急伝達システムを導入 第三次大野城市総合計画の中間基本計画策定 大野城市勤労者体育センターが完成 市制15周年記念市民大運動会開催 第1回中学生弁論大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員制度創設70周年を迎える 社会福祉士及び介護福祉士法公布 カネミ油症事件訴訟取り下げに国が同意(18年間の長期裁判事実上終結) 身体障害者実態調査結果概要まとめ(18才以上241万人と推計)
1988年 (昭和63年)	<ul style="list-style-type: none"> 移動入浴車による入浴サービス事業を開始 地域福祉モデル地区指定—白木原区、南ヶ丘1区 民生委員児童委員協議会との共催により、地域福祉研究会を開催(ネットワーク活動について) 介護ボランティアサークル「ききょう」と高校生ボランティアサークル「SUN」が結成される 	<ul style="list-style-type: none"> 総合公園内に弓道場完成 大野城市・春日市都市計画マスタープラン策定委員会発足 市の歌を「大野城賛歌」、イメージキャラクターの愛称を「まどかちゃん」に決定 第1回いかだ大会が開催 送迎による入浴サービスから、巡回入浴サービスによる入浴サービス事業に移行 	<ul style="list-style-type: none"> 耳の不自由な人が原告となった東京地裁の民事訴訟裁判で、傍聴席で手話、筆記通訳が行われた。 1年間に生まれた赤ちゃん131万2千人(明治32年以来最低記録)
1989年 (平成元年)	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)下大利区、中区 愛のネットワーク推進委員会を開催 祭壇事業を廃止 住民福祉懇談会、22ヶ所の地区で実施 緊急連絡カードの配布開始 福祉講演会「みんなで考える明日の福祉」韓国慶州ナザレ園 常務理事 宗 美虎氏 ボランティア連絡協議会結成される(ボランティア代表者連絡会発展的解消) 高校生ボランティアスクールを開始 	<ul style="list-style-type: none"> 市民情報オンラインシステムスタート JR九州鹿児島本線の白木原駅を大野城駅に改称 大野城総合公園の愛称を「まどかパーク」に決定 クリーンシティ「おおのじょうの日」実施 第36回全日本勤労者弓道選手権大会開催 コミュニティ保険スタート 大野城市のふるさと創生事業を「青少年の国際交流事業の推進」に決定 市長選挙。市長に古賀 典氏 第1回まどかりんピック開催 	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関の完全週休2日制がスタート フロンを西暦2000年まで全廃する「ヘルシンキ宣言」を採択 厚生省、腎移植ネットワークを組織、コーディネーターを養成する方針を固める

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1990年 (平成2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロバスが寄贈される(福祉バス運行開始) ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)平野台区、乙金台区 ・福祉講演会(医学博士 田中 多聞 氏) ・心身障害児通園施設「もちの木学園」廃園する ・心身障害者簡易通所作業所設立 ・身障協主催「翔んでふれあって」開始される ・サマーキャンプの参加者100名を越えた為年齢別に分かれて実施実施(ふれあいツアーの実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治論理条例施行 ・障害者きょうどう作業所(まどか作業所・ききょうの里)オープン ・市民図書館室と歴史資料展示室をオープン ・地域モデル指定事業制定 ・奨学資金条例施行 ・情報公開条例施行 ・国勢調査実施(人口75,214人・25.269世帯) ・第45回国民体育大会弓道競技会開催・MADOKAフェスティバル開催 ・県営牛頸ダム竣工 ・大野城市総合ゲートボール場オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ米国民法(ADA)成立する ・平成2年度を初年度とする高齢者保健福祉推進十ヶ年戦略策定 ・老人福祉計画のガイドラインまとまる
1991年 (平成3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)下大団地区、山田区 ・愛のネットワーク推進委員会(今後の活動について検討) ・地域福祉推進委員会研修会「地域福祉ネットワーク活動の充実をめざして」講師 兵庫県小野市社協 小倉 一幸 氏 ・社協会員の見直し(7割を基金積立てへ) ・母子寡婦福祉会40周年記念事業の助成を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保護条例施行 ・国際交流基金で中学生海外派遣 ・プライバシー保護条例施行 ・第三次大野城市後期基本計画スタート ・子供会育成会30周年記念式典を開催 ・牛頸ダム周辺レクリエーション・ゾーンの名称を「大野城いこいの森」に決定 ・高齢者サービス調整チーム設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエイズ患者33万人突破 ・「ねたきりゼロへの十カ条」について発表 ・「保健医療・福祉マンパワー対策本部中間報告」について発表 ・長崎雲仙普賢岳噴火
1992年 (平成4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうどう作業所(心身障害者・まどか作業所と身体障害者・まどか作業所と身体障害者・ききょうの里)を上大利に開所する ・朗読の会(文鳥)、点字サークル(あゆみの会)10周年記念事業を開催 ・ボランティア事業の指定を受ける ・サマーキャンプ10周年記念事業、ふれあいの翼(心身に障害をもつ子供たちとボランティアのふれあいの旅)を実施 ・法人設立20周年記念事業を開催 ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)上大利区、雑餉隈町区 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的複合施設の基本計画案決まる ・市制20周年記念式典開催 ・大野城いこいの森中央公園完成 ・第1回大野城いこいの森ロードレース開催 ・青少年センターオープン(200ミリ天体望遠鏡設置) ・赤坂テニスコートオープン ・北市民プールオープン(ウオータースライダー・ローラースケート場を併設) ・大野城いこいの森スポーツ公園グラウンド完成 ・市民慶弔制度スタート ・大野城市障害者福祉長期行動計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海道新幹線に「のぞみ」登場 ・PKO協力法案成立カンボジアへ派遣 ・バルセロナオリンピック開催 ・アルベールビルオリンピック開催 ・毛利さん、エンデバーで宇宙
1992年 (平成4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうどう作業所(心身障害者・まどか作業所と身体障害者・ききょうの里)を上大利に開所する ・朗読の会(文鳥)、点字サークル(あゆみの会)10周年記念事業を開催 ・ボランティア事業の指定を受ける ・サマーキャンプ10周年記念事業、ふれあいの翼(心身に障害を持つ子供たちとボランティアのふれあいの旅)を実施 ・法人設立20周年記念事業を開催 ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)上大利 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的複合施設の基本計画案決まる ・市制20周年記念式典開催 ・大野城いこいの森中央公園完成 ・第一回大野城いこいの森ロードレース開催 ・青少年センターオープン ・赤坂テニスコートオープン ・北市民プールオープン(ウオータースライダー・ローラースケート場を併設) ・大野城市障害者福祉長期行動計画策定 ・市民慶弔制度スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海道新幹線に「のぞみ」登場 ・PKO協力法案成立カンボジアへ派遣 ・バルセロナオリンピック開催 ・アルベールビルオリンピック開催 ・毛利さん、エンデバーで宇宙へ
1993年 (平成5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ地域福祉推進研究会の開催 ・テーマ「21世紀に向けて高齢化社会への構築」 ・あいあい(ボランティアサークル)が結成される ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)下筒井区、東大利区、乙金区 ・乳幼児育児相談事業開始(市保育所連盟の協力により) ・移送サービス事業開始に向けてニーズ調査研究を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城市女性計画を策定 ・デイサービス事業スタート ・デイサービスセンター ・在宅介護支援センター開所 ・春日大野城消防本部・署新庁舎(春日市春日公園)完成 ・大野城いこいの森水辺公園完成 ・大野城いこいの森キャンプ場オープン ・市長選挙 市長に後藤幹生氏 ・空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例施行 ・21世紀の大野城市を考えるまちづくりアンケート実施 ・移動市長室スタート ・小学校に教育用コンピュータを導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・皇太子さま、雅子さまのご成婚 ・北海道南西沖地震

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1994年 (平成6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいのまちづくり」事業の指定を受ける ・福祉コミュニティをテーマに地区社協づくりにむけて、研究委員会を設置し研究協議の開始 ・施設入浴サービスの開始(悠生園へ委託) ・移送サービス事業の開始 ・ボランティアグループ(あいあい)によりおもちゃ図書館、拡大写本のボランティアグループとして、「虹の会」が結成される ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)上筒井区、乙金東区、井の口区 ・総合福祉センター研究委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城市老人保健福祉計画を策定 ・移動図書館「わくわく号」運行 ・車いすや寝たきりの状態でも乗車できるリフトカーを運行 ・大野城いこいの森イメージキャラクターの愛称を「ハバリ」に決定 ・貨布、土製かまどなどを大野城市指定文化財に指定 ・有料指定ごみ袋制実施 ・異常渇水による給水制限 ・タウンディレクター、市政への提案制度「タウンカード」などスタート ・大野城市子ども議会開催 ・多目的複合施設名称を「大野城まどかぴあ」に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・松本サリン事件 ・女性宇宙飛行士、向井千秋さんがコロンビアで宇宙へ ・関西国際空港開港 ・大江健三郎氏にノーベル文学賞 ・リレハンメルオリンピック開催
1995年 (平成7年)	<ul style="list-style-type: none"> ・社協基盤強化を図るため総務委員会、福祉事業委員会の専門委員会を設置し、ふくしのまちづくりを進めるため研究協議の実施 ・在宅介護者リフレッシュ事業開始 ・ふくし何でも相談、電話法律相談新たな相談事業開始 ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)畑詰区、月の浦区、大池区 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央デイサービスセンター、在宅介護支援センターオープン ・春日大野城リサイクルプラザ完成 ・給水制限解除 ・御笠の森・薬師の杜・高原家所蔵文書を市の指定文化財に指定 ・いこいの里オープン ・国勢調査実施 (人口82,903人) (世帯29,549) ・環境基本条例施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災 ・地下鉄サリン事件 ・円高騰1ドル=79.75円
1996年 (平成8年)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉まちづくりアンケート調査実施(今後の社協の方針、活動を確立させるため) ・福祉食事サービス事業の日曜、祭日の宅配希望調査実施 ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)栄町区、釜蓋区 ・市へ将来のコミュニティ施設への地区社協の配置について要望書を提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊ぶまちづくり条例施行 ・第4次大野城市総合計画スタート ・ことばの教室・障害児療育事業開始 ・(財)おおのじょう緑のトラスト協会設立 ・粗大ごみ個別収集・有料化スタート ・市内循環バス(まどかちゃん号)路線開設 ・月の浦小学校開校 ・大野城まどかぴあオープン ・(財)大野城市体育協会設立 ・24時間巡回型ホームヘルプサービススタート ・第1回生涯学習フェスティバル開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースシャトル・エンデバーに若田さん搭乗 ・アトランタオリンピック開催 ・ペルー日本大使館公邸事件
1997年 (平成9年)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉基金の見直しに着手 ・地域福祉活動計画及び介護保険導入を踏まえ在宅福祉サービス利用者を対象に社会背景調査実施 ・ミニデイ(よりあい)新規事業実施 9区に指定牛頸区、南ヶ丘1区、南ヶ丘2区、上大利区、東大利区、瓦田区、中区、乙金台区、乙金東区 ・地域福祉モデル地区指定—(2ヶ年)つづじヶ丘区 ・福祉のまちづくり報告書完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやか交流プラザ(健康づくりと福祉の総合センター)オープン ・第1回女性フォーラム開催 ・都市計画マスタープラン策定のための第1回市民ワークショップ開催 ・男女共同参画都市宣言 ・市長選挙 市長に後藤幹生氏再選 ・春日大野城消防署東出張所開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸児童連続殺傷事件 ・元ダイアナ妃事故死 ・サッカーW杯初出場決定 ・消費税5%スタート
1998年 (平成10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業委員会へ「地区社協の構築について」諮問を行い答申を受ける ・入浴サービスの機能強化週2回から5回の実施 ・新規事業—ホームヘルパー3級養成研修開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城市環境基本計画策定 ・すこやか・ふれあいプラン(地域保健福祉計画)策定 ・青少年育成アクションプランがスタート ・第1回女性の翼(オーストラリア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山の毒物カレー事件 ・長野冬季五輪開催 ・戦後最悪の不況、過去最大の景気対策

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年 代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
1999年 (平成11年)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度スタートに向けて専門委員会等で事業調査検討し、理事会、評議員会で議決、事業者申請を行い指定を受ける ・南地区、中央地区コミュニティセンターの新設を機に、福祉活動コーディネーターを派遣し、福祉コミュニティづくりの中心的役割を果たすコミュニティ福祉部会の設立に向けての支援活動に取り組む ・いこいの里運営事業を市より受託 ・経理事務において複式簿記を正式に採用し、財務運営の明確化を図るなど事務局基盤強化に向けて取り組みを行った ・ミニデイ事業指定—大池区、平野台区 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民票、印鑑登録証明書の自動交付機をまどかぴあに設置 ・ホームページを開設 ・福岡都市高速道路2号線と九州自動車道が太宰府インターチェンジで接続 ・大野城市都市計画マスタープラン策定 ・JR大野城駅東口広場完成 ・高齢者生きがい創造センターオープン ・中央コミュニティセンターオープン ・南コミュニティセンターオープン ・「生涯学習まちづくり出前講座」スタート ・6.29集中豪雨 ・大野城市国際交流協会設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海村で国内初の臨界事故 ・失業率過去最高、中高年の自殺急増 ・国旗国歌法成立 ・要介護認定が始まり介護保険が実質スタート ・トルコ、台湾大地震
2000年 (平成12年)	<ul style="list-style-type: none"> ・各コミュニティ福祉部会の実践活動「番茶の会」をはじめ地域福祉推進の積極的な支援活動を行い、又全市的な福祉活動の情報交換と具体的活動の実践組織としてコミュニティ福祉部会連絡協議会の組織化を図る ・介護保険事業として指定居宅介護支援事業、指定訪問介護事業及び指定訪問入浴事業の開始 ・介護サービス事業運営委員会を設置 ・市の受託事業として、生活管理指導員の派遣(ホームヘルプ)を開始 ・福祉情報の収集、発信機能の拡充のため、情報公開制度化の取り組みを行う ・社協運営の合理化—経理規程の全面的改正 ・介護ステーションとしてヘルパー就労環境の 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸籍電算システムスタート ・ペットボトル、白色トレイの分別収集始まる ・旭ヶ丘テニスコートオープン ・国勢調査実施 (人口89,414人) (世帯33,272) 	<ul style="list-style-type: none"> ・西鉄バス乗っ取りなど少年犯罪相次ぎ、法改正 ・有珠山、三宅島で噴火、鳥取県西部地震では震度6強を記録 ・五輪女子マラソンで高橋尚子が日本初の「金」 ・介護保険制度スタート ・雪印製品で集団食中毒 ・新潟の少女監禁事件 ・シドニーオリンピック開催 ・白川英樹氏にノーベル化学賞
2001年 (平成13年)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開制度発足 ・各コミュニティ福祉活動「番茶の会」を起爆剤とする支援と今後の地域福祉推進の形成を図る ・新規事業として「ハンディキャブ貸出事業」を開始し、運転ボランティアの確保と男性ボランティアの掘り起こしにつなげる ・公募により海外へNGOを通してボランティアを派遣 ・ミニデイ事業指定—下大利区、畑詰区、井の口区 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛頭生活環境保全林オープン ・南デイサービスセンター・在宅介護支援センターオープン ・中央・南コミュニティセンターに「遊びの広場」オープン ・大野城市緑の基本計画を策定 ・市長選挙 市長に後藤幹生氏三選 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内初の狂牛病の牛を確認 ・敬宮愛子様誕生 ・えひめ丸がハワイ沖で米原潜と追突、沈没 ・大阪池田小に刃物の男、児童8人が死亡 ・米国で同時多発テロ事件 ・野依良治氏にノーベル化学賞
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉食事サービス事業—配食サービス支援システムの導入を図る ・ボランティア育成新規事業—ボランティアワークキャンプの開催 ・定年予備校の開催 ・市の受託事業として、精神障害者ホームヘルプサービス事業を開始 ・法人設立30周年記念事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・まどかパークリフレッシュオープン ・市制30周年記念式典を開催 ・子育て支援センターオープン ・ファミリー・サポート・センター・おおのじょう開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーW杯日・韓共同開催 ・小柴昌俊氏にノーベル物理学賞 ・田中耕一氏にノーベル化学賞 ・ソルトレークシティオリンピック開催
2003年 (平成15年)	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員連合協議会と事務局との定期的な協議の場の設置 ・福祉委員会正副会長会を定期的に開催 ・福祉事業委員会による「地域福祉活動の充実に向けて」と「子育て支援等推進に向けて」の答申書の提出 ・福祉センター増改築による障害者施設団体が製作する授産品等の常設展示スペースの確保 ・ボランティアセンターの機能強化 ・ボランティアによるボランティアのホームページを開設 ・正規職員増員による介護サービス事業の職務遂行の体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス「まどか号」運行開始 ・ファミリー交流センターオープン ・特産品、麦焼酎「吟醸磨き大野城」発売開始 ・北コミュニティセンターオープン ・杉内俊哉投手に大野城市民スポーツ栄誉賞を授与 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵政事業庁が日本郵政公社になる ・イラク戦争、自爆テロ相次ぐ ・日本祐瀬う公社発足 ・世界人口63億人 ・障害者支援費制度施行 ・「次世代育成支援対策推進法」成立 ・「少子化社会対策基本法」公布 ・新障害者プラン策定 ・ハートビル法関連情報施行 ・高訴訟、最高裁

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
2004年 (平成16年)	<ul style="list-style-type: none"> ・労務管理手続きを委託から自社手続へ変更 ・地域福祉推進委員対象の研修会やコミュニティごとの福祉レクリエーション講座等の開催 ・登録子育てサークルへ「子育てだより」等の情報提供を行う ・ハンディを持つ子どもたちとの一時預かり事業(夏っ子クラブ)を実施 ・福祉事業委員会における生活福祉マップづくり研究を行う ・福祉センター内の常設展示スペースの充実とともに新たに交流スペース「ほっとぴあ」を設ける ・障害者きょうどう作業所活性化委員会の設置 ・共同募金の啓発ポスターを小学校に募集し、啓発に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・東コミュニティセンターオープン ・子ども情報センターオープン ・筑紫地区精神障害者生活支援センターオープン ・とびうめ国文祭「ふくおか演劇祭」「まどか映像祭」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・新千円札、5千円札、1万円札発行 ・アテネ五輪開催 ・裁判員制度法成立、年金法成立 ・新潟中越地震が発災 ・スマトラ沖地震が発災 ・発達障害者自立支援法成立
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> ・法人独自の会計ソフトを開発 ・生活福祉マップづくり(上筒井区) ・子育てサポーター要請講座開催 ・夏っ子クラブにおいて一泊キャンプを実施 ・重度障がい者のレクリエーションを協働で開催(いこいの里) ・「ほっとぴあ」にて毎週水曜日に「パン工房こすも」と「まどか作業所」による軽食販売 ・共同募金運動のキャッチフレーズを市民より募集し啓発に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県西方沖地震(3月20日) ・北デイサービスセンター・在宅介護支援センターオープン ・市長選挙。市長に井本宗司氏。 ・大野城市史刊行 ・国勢調査実施(人口92,748人)(世帯35,272) ・ねんりんピックふくおか2005ペタンク競技大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行 ・「障害者自立支援法」公布 ・「高齢者虐待防止法」公布 ・障害者自立支援法成立 ・日米社会保障協定発効 ・日本国際博覧会(愛知万博)「愛・地球博」が開幕
2006年 (平成18年)	<ul style="list-style-type: none"> ・制度外介護サービス事業「ほっとサポート」を開始 ・ボランティアセンター運営委員会の設置 ・重度障がい者の社会参加支援事業として日帰りツアー実施 ・指定管理運営「いこいの里」にて鏡開きイベント開催 ・ふれあいの旅を小・中学生対象と高校生以上対象とに分ける ・イメージキャラクターと社協だよりの愛称を募集。イメージキャラクターは「ふーちゃん」、社協だよりの愛称は「ふくしんぼ」に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城跡、日本百名城に選定される ・男女共同参画条例施行 ・防犯パトロールカー(青パト)を配置 ・福岡都市圏南部環境事業組合設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーW杯ドイツ開催 ・日本郵政株式会社発足 ・出生率1.26は過去最低 ・ワンセグ放送開始 ・「認定子ども園設置法」公布
2007年 (平成19年)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援(見守り)体制として「地域ケア会議」開始。一員として参加。 ・福祉委員が社協会長と市長からの委嘱に。 ・障がい児タイムケア事業開始(市からの委託事業) ・赤ちゃんホームヘルパー受託(市からの委託事業) ・学童保育障がい児ヘルパー派遣事業受託(市からの委託事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)おおのじょう緑のトラスト協会が自然環境功労者環境大臣表彰を受賞 ・「まどか号」東部ルート新設 ・「第27回緑の都市賞」内閣総理大臣賞を受賞 ・大野城市役所コールセンター開始 ・週末窓口サービス開始 ・「コミュニティのまち大野城」総務大臣表彰を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車運転過失致死傷罪新設 ・郵政民営化 ・国連「障害者の権利条約」に署名 ・社会福祉士及び介護福祉士法改正 ・障害者施策における「重点施策実施5か年計画」策定
2008年 (平成20年)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティごとの地域を担当する職員体制を構築 ・コミュニティごとに区長さん方と地域福祉活動についての懇談会開催 ・「地域で支える災害時要援護者支援制度の手引き」について福祉委員さん方との意見交換会を行う ・ボランティアセンター理念構築協議を行う ・福祉食事サービス事業において365日事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合窓口「まどかフロア」オープン ・新たなコミュニティ構想策定 ・北京オリンピックに大野城市出身の杉内俊哉投手(野球)、柴田隆一選手(水泳)、春口沙緒里選手(水泳)が出場 	<ul style="list-style-type: none"> ・北京五輪が開催 ・後期高齢者医療制度スタート ・「新待機児童ゼロ作戦」発表 ・後期高齢者医療制度(長寿医療制度)開始 ・日米首脳会談、日加首脳会談

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザや豪雨災害時における危機管理対策を行う ・ボランティアシンポジウムを開催 ・生活福祉資金貸付の相談支援増大 ・障がい者地域活動支援センターの運営開始 ・学校等送迎等事業(市の制度)確立までの間、関係団体と協議を重ねる 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛頸須恵器窯跡、国史跡に指定される ・公共施設予約システムスタート ・第5次大野城市総合計画スタート ・高齢者移動支援「ふれあい号」運行開始(南地区) ・筑慈苑施設組合加入 ・中国・九州北部豪雨が襲う ・杉内俊哉投手に大野城市民特別栄誉賞を授与 ・市長選挙。市長に井本宗司氏(2期) 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度開始 ・定額給付金支給始まる ・高速道路土日祝、千円 ・子ども・子育てビジョンの策定
2010年 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者地域活動支援センターでのパソコンを活用した活動、とまと栽培ハウスでの栽培を行う ・生活福祉資金貸付の倍増(前年度比)と相談事例集の作成 ・社協ホームページのリニューアル ・介護サービス事業のモニタリング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代山城プレサミット開催 ・「ふくおかを元気にする共助社会づくり活動表彰 共助社会づくり奨励賞」と「第2回ふくおか地域づくり活動賞」を南地区コミュニティ運営委員会が受賞 ・まちづくりパートナー基金設置 ・安全安心まちづくり条例施行 ・暴力団排除条例施行 ・災害時要援護者支援制度創設 ・広報1000号発刊 ・古代山城サミット・日本最古の山城まつり開催 ・「大野城」のキャラクターが「大野ジョー」と「タスケ」に決まる ・国勢調査実施(人口95,087人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・バンクーバー冬季五輪 ・子ども手当支給始まる
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふーちゃんゼミナールを4コミュニティ開催、学校における福祉教育のべ20日・受講児童2,061名 ・東日本大震災における街頭募金、救援物資募集情報配信などの支援開始 ・東日本大震災での被災地支援(福島県南相馬市への職員支援のべ14名・87日) ・被災地への支援物資提供と義援金 ・ボランティアコーディネーター3級検定を日本ボランティアコーディネーター協会と共催し実施 ・ボランティアセミナー～参加と対話から始まるまちづくり～開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災(3月11日) ・コミュニティ条例施行・「新しいコミュニティのかたち」スタート ・災害情報伝達システムを市内全域に整備 ・シニア大学「山城塾」スタート ・全公民館・集会所にエレベータを整備完了 ・本多雄一選手に大野城市民スポーツ栄誉賞を授与 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州新幹線が全線開通 ・アナログ放送が終了 ・東京スカイツリーが完成 ・東日本大震災が発災 ・世界人口が70億人突破
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の継続支援として、被災地応援まどかショップでの福島県南相馬市特産品販売、「福島へ行く応援ツアー」開催、南相馬つ子ふれあい交流プロジェクト事業を開催 ・九州北部豪雨災害地の災害ボランティアセンターへの職員派遣 ・小中ふれあいの旅とふれあいの旅30回記念として大阪ユニバーサルスタジオジャパンへの旅を開催 ・大野城市総合福祉まつりでの社協40周年記念行事を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス案内コーナー開設 ・地区別総合避難訓練(逃げタオル運動)開始 ・飲酒運動撲滅都市宣言 ・市制施行40周年 ・大利アンダーパス開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・金環日食 ・東京スカイツリー開業 ・ロンドン五輪開催
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者地域活動支援センターの指定管理業務が終了 ・福島県南相馬市に仮設住宅での生活支援研修のため職員を3班に分けて派遣 ・小中学校の教職員を対象に福祉教育基礎研修会を開催 ・山口県・島根県豪雨災害において山口県萩市災害ボランティアセンターへ職員を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・市制40周年 ・西鉄下大利駅東口駅舎移転 ・大利アンダーパス歩道に大利小学校生徒による壁画制作 ・大規模災害時の防災に対する連携 ・九州整備局と大野城市が応援協定を締結する ・乙金多目的広場オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピック招致決定 ・楽天・球団創設9年目で日本シリーズ優勝 ・富士山世界遺産登録 ・NHK連続テレビ小説「あまちゃん」ブーム
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画を策定 ・市内で初めて上大利区で「認知症徘徊捜索トレーニング」を実施 ・赤い羽根共同募金のつどいinおおのじょうを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月水城大野城、基い城1350年記念式典 ・11月 水城跡フェスタ開催 ・水城ゆめ広場オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・テニス錦織圭選手全米オープンで準優勝 ・41歳レジェンド葛西紀朗選手ソチ五輪で銀メダル獲得 ・青色LED発明日本人3名ノーベル物理学賞に輝く

大野城市社会福祉協議会50年のあゆみ

年代	社会福祉協議会のあゆみ(主なもの)	市の主なできごと	社会情勢
2015年 (平成27年)	<ul style="list-style-type: none"> 初めておおのじょうボランティアのつどいを3月11日に開催 大野城市総合福祉まつりに関して弁護士による法律相談を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 3月 飯塚大野城線・原人橋乙金線開通 8月 大野城跡フェスタ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 安全保障関連法が成立 TPP交渉が大筋合意 日本人科学者2人がノーベル賞 ラグビーW杯で歴史的勝利 世界各地でイスラム過激派のテ
2016年 (平成28年)	<ul style="list-style-type: none"> 寄付につき商品の販売を開始 市の委託による生活支援体制整備事業の開始 法人後見業務を監督するため「成年後見運営委員会」を設置 熊本地震では全社協・ヘルパー連絡会の調整により熊本県御船町の福祉避難所において運営支援にあたる 福祉教育推進校に大野小学校が選定される 	<ul style="list-style-type: none"> 4月 平成28年 熊本地震(4月16日) 5月 四王寺山フェスタ開催 大野城歴史の散歩道完成 8月 人口10万人達成 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇陛下、即位の意向示唆 熊本地震死者150人越 米大統領選でトランプ氏勝利 英国がEU離脱決定
2017年 (平成29年)	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業において「大野城市暮らしのまよい帳」を作成 熊本復興応援の旅を開催 九州北部豪雨で被災した朝倉市東峰村のボランティアセンターの職員に派遣 4地区のコミュニティにて法律相談を実施 権利擁護課を設置し、権利擁護事業の取り組みを強化 	<ul style="list-style-type: none"> 3月 大野城まち歩きアプリ「ジョークエスト」サービス開始 4月 水城跡、続日本100名城に選定される 7月 平成29年7月九州北部豪雨(7月5日) 乙金第2土地区画整理事業竣工 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇即位2019年4月末 桐生祥秀ついに9秒台 森友・加計・日報、政権揺るがす 北 朝鮮、核ミサイル開発加速 トランプ米政権発足、混乱続く
2018年 (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> 大野城市内の13社会福祉法人で社会福祉法人連絡会を発足 第1層協議体「まよいネット大野城」が設置 第2期 大野城市地域活動における市民活動推進計画を算定 まどかぴあ、心のふるさと館、総合福祉センターの3館連携を目的にコネクティッド会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 7月 大野城心のふるさと館オープン 	<ul style="list-style-type: none"> オウム松本元死刑囚らの刑執行 日産ゴーン会長を逮捕 米朝が史上初の首脳会談を開催 米中貿易摩擦が激化 メルケル独首相「引退」
2019年 (平成31年) (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> 10月1日より日常生活自立支援事業が基幹型方式より市町村式へと移行 社協だより(ふくしんぼ)をタブロイド版に改訂し全戸配布する 小中ふれあいの旅が終了。以後、ふれあいの旅を一本化して開催 	<ul style="list-style-type: none"> 7月 子ども情報センターが「れいわ子ども情報センター」に名称を改めリニューアルオープン 11月生誕30種年を迎えたまどかちゃんがりリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇陛下が即位。「令和」に改元 ラグビーW杯日本大会開幕、日本8強 消費税率10%スタート 香港で学生らが大規模デモ ノートルダム大聖堂で大火災
2020年 (令和2年)	<ul style="list-style-type: none"> コロナウィルスの感染拡大に伴う生活困窮者への対応として特例貸付が開始される 新型コロナウイルスの感染対策のためふれあいの旅を日帰りで開催 社協のホームページをリニューアル タイムケア事業が終了 	<ul style="list-style-type: none"> 6月 大野城市の文化財の一部が日本遺産『古代日本の『西の都』』～東アジアとの交流拠点～として広域認定される 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大 緊急事態宣言 東京五輪・パラリンピックが1年延期 菅首相誕生 新内閣発足 安倍首相 辞任表明 藤井聡太七段 最年少タイトル 新大統領 バイデン氏 WHO パンデミック宣言 英国がEU離脱
2021年 (令和3年)	<ul style="list-style-type: none"> 第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画を策定。 食料品等の無料配布を行う「ふーちゃんパントリー」を設置 福祉センター全館にWiFiを導入する。 リフトカーと福祉バスが新車両に入れ替える。 入浴車両は24時間テレビの助成を受け新車両に整備。 若い世代の視点からボランティア活動を考えるYoungボランティアセンター運営委員会(通称:Young Free Helper)を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 1月 青少年の居場所「ユープレ」オープン 大野城市出身 勝木隼人選手 東京2020オリンピック競技大会 陸上競技男子50km競歩出場決定 新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため公共施設閉所閉館となる 	<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪・パラリンピック開催 緊急事態宣言 & まん防発令 ワクチン接種が開始 インド変異株が世界中で蔓延 タリバンがアフガン首都掌握 スエズ運河で日本コンテナ船座礁
2022年 (令和4年)	<ul style="list-style-type: none"> 死後事務事業を開始 社協法人化50周年を迎え職員によるプロジェクトチームが企画「社協ふくしの祭典」を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 市制50周年を迎える 8月28日 西鉄天神大牟田線(雑餉隈駅付近～下大利駅付近)が高架に切り替わる 	<ul style="list-style-type: none"> ロシア軍ウクライナ侵攻 知床半島沖で観光船が沈没 安倍晋三元首相 選挙演説中銃撃され死亡

※市の主なできごと(出典:大野城市ホームページ)